

環境経営レポート

エコアクション21



【第16期】

2023年7月～2024年6月

2024年6月30日 発行

〒232-0053

横浜市南区井土ヶ谷下町16-6

TEL : 045-743-4411

FAX : 045-743-1994

向洋電機土木株式会社

1. 会社概要 対象範囲	3
2. 環境経営方針	4
3. 実施体制	5
4. 環境経営目標	6
5. 環境経営目標の実績	7
6. 主な環境活動計画の内容	8
7. 環境活動計画に基づき実施した取り組み内容と評価、 および次年度の取り組み	10
8. 環境関連法規への違反・訴訟等の有無	28
9. 代表者による全体の評価と見直し	29

1.会社概要

対象範囲

向洋電機土木株式会社

社名	向洋電機土木株式会社																												
本社所在地	横浜市南区井土ヶ谷下町16番地6																												
代表取締役	倉澤 俊郎																												
環境管理責任者 環境管理担当者	責任者 担当者	横澤 昌典 森 寿恵																											
創業	昭和40年3月11日																												
法人設立	昭和40年3月11日																												
資本金	3,700万円																												
事業の概要	屋内外の電気設備 設計・施工																												
建設業許可	神奈川県知事許可(特-3) 第4118号 電気工事業(特) 土木工事業(特) 神奈川県知事許可(般-3) 第4118号 消防施設工事業(般) 電気通信工事業(般) とび・土工工事業(般) 鋼構造物工事業(般) 舗装工事業(般) 石工事業(般) 塗装工事業(般)																												
社員数	36名																												
認証取得状況	ISO9001 EA21 横浜型地域貢献企業 よこはまグッドバランス賞 横浜健康経営認証 横浜市SDG s 認証制度Y-SDG s かながわSDG s パートナー かながわサポートケア企業 かながわ治療と仕事の両立推進企業																												
事業規模	<table><tr><th>活動規模</th><th>単位</th><th>2021年度 (2021.7月～ 2022年6月)</th><th>2022年度 (2022.7月～ 2023年6月)</th><th>2023年度 (2023.7月～ 2024年6月)</th></tr><tr><td>売 上 高</td><td>百万円</td><td>1515</td><td>1349</td><td>1245</td></tr><tr><td>従 業 員</td><td>人</td><td>34</td><td>36</td><td>36</td></tr><tr><td>床 面 積</td><td>m²</td><td>195</td><td>195</td><td>195</td></tr><tr><td>工 事 件 数</td><td>件</td><td>32</td><td>25</td><td>21</td></tr></table>				活動規模	単位	2021年度 (2021.7月～ 2022年6月)	2022年度 (2022.7月～ 2023年6月)	2023年度 (2023.7月～ 2024年6月)	売 上 高	百万円	1515	1349	1245	従 業 員	人	34	36	36	床 面 積	m ²	195	195	195	工 事 件 数	件	32	25	21
活動規模	単位	2021年度 (2021.7月～ 2022年6月)	2022年度 (2022.7月～ 2023年6月)	2023年度 (2023.7月～ 2024年6月)																									
売 上 高	百万円	1515	1349	1245																									
従 業 員	人	34	36	36																									
床 面 積	m ²	195	195	195																									
工 事 件 数	件	32	25	21																									
本社案内図	■ 京浜急行 井土ヶ谷駅より 徒歩 10分 ■ 市営地下鉄 蒔田駅より 徒歩 8分 TEL : 045-743-4411 FAX : 045-743-1994 ホームページ http://www.kouyo-dd.jp																												
対象組織・活動	認証登録事業所 認証登録事業活動	本社（全組織） 屋内外の電気設備 設計・施工（全事業活動）																											

環 境 経 営 方 針

当社が仕事をする上で環境を守るための心構えを表したものです。

【環境基本理念】

向洋電機土木株式会社は、企業が社会の一員であることを自覚し、電気設備の施工において環境負荷の軽減ならびに環境を保全する技術・製品の提供に努めます。そして企業価値を向上させ環境経営の継続的改善を行っていきます。

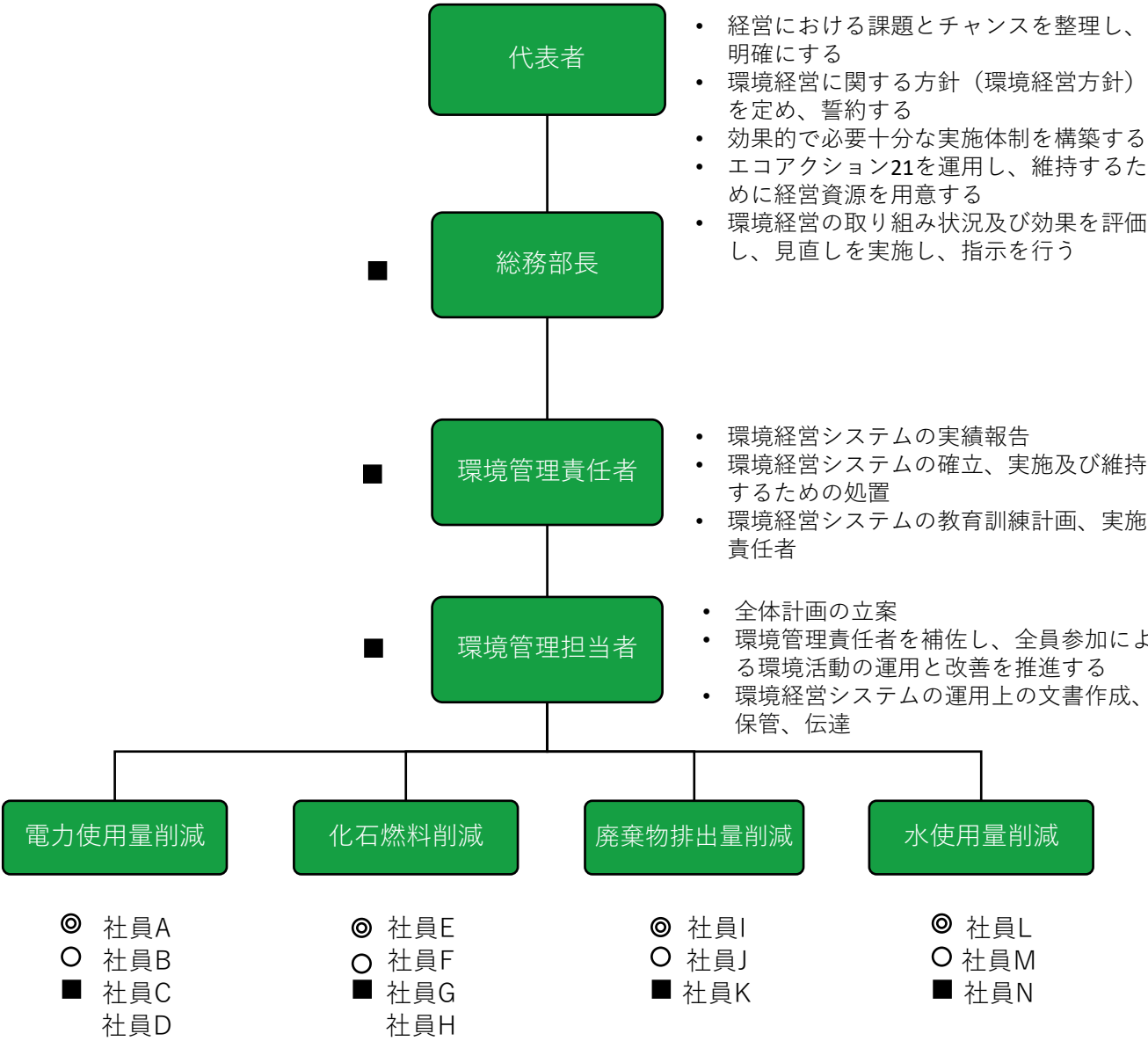
【行動指針】

1. 環境保全への取組みを経営の最重要課題の一つと位置づけ、設計・建設・サービスの全ての領域で、環境の保全と向上に取り組む。
 - イ) 会社における車両の保守点検作業の励行と安全運行の遵守に努めます。
 - ロ) 持ち込み機械等の騒音・振動防止運転を図ります。
 - ハ) 設備点検の励行、材料・保管管理の徹底に努めます。
2. 当社の企業活動に係る全ての環境関連法規、その他社会的要求事項を遵守する。
 - イ) 国・地方自治体などの環境に関する規制及び当社が同意したその他の要求事項を遵守することはもとより、自主管理基準を設定して継続的に確認致します。
3. 常に環境負荷低減の観点に立ち、省資源・省エネルギー・リサイクルを考慮した技術・製品の開発・設計に努める。
 - イ) 副資材等の購入において、積極的にグリーン購入を推進することによりお客様の環境保全活動に寄与する。あわせて、社内で使用するオフィス用品のグリーン購入推進に努めます。
4. 企業活動における廃棄物の削減・分別・省エネルギーに努める。
 - イ) コピー用紙/OA紙等の両面使用と各自の責任に於いてレスペーパー活動に努めます。
 - ロ) 紙類のリサイクル化を重点目標にし、廃棄物処理の削減に努力致します。
5. 環境教育を通じて全社員に本理念・指針を周知徹底し、継続・自発的な環境意識の向上を図る。
 - イ) 内部環境監査を実施し、自主管理による環境マネジメントシステムの維持向上に努めます。
 - ロ) 環境教育を実施し全社員が環境方針の遂行に当たり環境に関する意識向上を図ると共に取引先へも環境基本方針を周知し、理解と協力を要請します。
6. SDG s 17のゴールと169のターゲットに基づき、環境経営活動を促進する。
 - イ) 社内外への周知活動及び講習会への講師派遣等を行い、社員だけではなく地域全体の環境意識向上を図ります。

この方針は内外に公表する。

令和6年4月1日
向洋電機土木株式会社
代表取締役 倉澤 俊郎

【環境管理実施体制】



※事業所及び建設現場での実施体制は、同一のものとします。
※◎印は担当責任者 ○印は副担当責任者 ■印は内部監査員

基準値は2022年度実績とし、2027年度迄の中長期目標を掲げ環境活動に取り組んでおりましたが、2022年度審査時はコロナが5類になって間がなく、様々な想定が難しい状況でした。その後世情が大きく変化すると共に、半期振り返り時には現場が順調に増え特に遠方の現場が目立つ状況でした。そのため以下のように目標の再設定を行いました。

- 電力：現場常駐者が増えるが、本社における電力量増減へのインパクトは少ないと予想
- 化石燃料：遠方現場への移動が増えるため、ガソリン使用量は確実に増加すると予想
- 廃棄物：一般廃棄物は本社分で計測。産業廃棄物は受注状況により目標を立てづらい為、今年の実績を今後の目標とし推移を見守ることとする
- 水使用量：現場常駐者が増えるため、本社の水使用量は微減すると予想

今後も年度ごとの受注状況を勘案し、発生ベースで適切に目標修正を行いより良い取り組みを続けてまいります。

項目	単位	2022年 (基準)	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年
二酸化炭素総排出量	kg-CO2/年	56490	69201.96	69201.96	69201.96	69201.96	69201.96
電力使用量	kwh/年	23131	23362.31	23362.31	23362.31	23362.31	23362.31
化石燃料使用量	ℓ/年	19308.09	24743.1	24743.1	24743.1	24743.1	24743.1
一般廃棄物排出量	kg/年	1980.7	2570	2570	2570	2570	2570
産業廃棄物排出量	kg/年	30745.59	302100	302100	302100	302100	302100
総排水量	m³/年	98	95	95	95	95	95

グリーン購入の推進	円 (%)	今後の数値目標の為、 数量把握する
環境配慮商品の推進	-	LED、太陽光発電の施工
社会貢献活動の推進	-	各種募金運動、エコキャップ等
SDG s への取組の推進	-	社内外へのSDG s 周知活動 講習会開催等

- 化学物質については使用が無い為、目標設定はありません。
- 電力の二酸化炭素排出係数：0.505とします。
- グリーン購入は社内事務用品を対象とします。

【取組結果】
運用12カ月間（2023年7月～2024年6月）の取組結果

全社取組
（ 事業所 + 建設現場 ）
2023年度

項 目			単 位	2023.7～2024.6		目標対比	結果
				目標数値	実績数値		
二酸化炭素排出量	電力	購入電力	kWh	23362.31	23218	99.38%	○
		排出量	kg-CO2	11797.97	11725.09	99.38%	
	化石燃料	ガソリン	L	24743.1	22605.59	91.36%	○
		ガソリン (排出量)	kg-CO2	57403.99	52444.97	91.36%	
		灯油	L	0	0	-	
		灯油(排出量)	kg-CO2	0	0	-	
		軽油 本社・現場	L	0	239.21	-	
		軽油(排出量) 本社・現場	kg-CO2	0	617.16	-	
		燃料排出量	kg-CO2	57403.99	53062.13	92.43%	
		総排出量	kg-CO2	69201.96	64787.22	93.62%	
廃棄物 排出量	一般廃棄物	kg	2570	1370.50	53.3%	○	
	産業廃棄物	kg	302100	302165.85	100%		
	その他産業廃棄物	kg	0	0	-		
	総排出量	kg	304670	303536.35	99.62%		
総排水量	総排出量	m³	95	90	94.74%	○	

項 目	実績	結果
社内事務用品のグリーン購入対象商品の推進	209,811 (25.64%)	○
環境配慮商品の推進(LED電球、太陽光発電)	施工した	○
社会貢献活動の推進	推進した	○
SDG s への取組の推進	推進した	○

(結果) ○：十分達成できた △：取り組みを実施したが達成できなかった ×：取り組みが出来なかった

【総評】
今年度も、これまでの結果を勘案し中長期目標ではなく去年度数値に基づいた単年目標で推移を確認しました。毎年毎現場によって仕様が異なることで現場管理の難しさがありますが、行動は数値にダイレクトに繋がります。
産業廃棄物については例年通りのカウントで纏めておりますが、本社分と現場分を分離させて計算し、7の取組内容と評価（P.16～18）については本社分として再構成し分析を行っています。

6.主な環境活動計画の内容

本年度の評価を基に、2023年度の主な環境活動計画を以下のように定めます。
評価 ◎：取組有り ○：新規 ー：取組無し 次年度 ★：継続 ○：新規 ー：継続無し

取組項目		主な活動内容	評価	次年度
二酸化炭素排出量削減	電力消費量	・ エアコンの清掃をこまめに行い、室内温度を設定する。 (冷房…28度、暖房…20度)	◎	★
		・ 昼休み及び不在時はトイレ・給湯室・会議室等を消灯する。	◎	★
		・ OA機器等を使用しない時は電源を切る。	◎	★
		・ 一括電気OFFスイッチの活用。	◎	★
		・ 倉庫の照明をLED化する	◎	ー
		・ お客様に効率の良い省エネタイプの照明器具及び機器等を提案する。	◎	★
		・ ワットチェッカーにて数値を見える化する。	ー	○
		・ トップランナー制度、省エネラベリング制度についての理解と周知をする。	◎	★
	化石燃料消費量	・ 毎月ガソリン給油量と走行距離の報告書提出、集計。	◎	★
		・ 無駄なアイドリングを行わない。	◎	★
		・ エコドライブの意識向上。(急発進、急加速等の防止)	◎	★
		・ 定期的に車両点検～整備をして、燃料効率を落とさない。	◎	★
		・ 車内清掃の徹底。	◎	★
		・ 乗合の推進。	◎	★
		・ 低燃費走行を心掛け、過積載をしない。(使用しない工具や機器は乗せない)	◎	★
		・ 出来る範囲内での燃料効率の高い車種への交換。	◎	★
		・ 現場毎に車使用の妥当性を判断し、公共交通機関を利用する。	◎	★
	廃棄物排出量削減	・ 廃棄物の削減に努め、分別・リサイクルを徹底する。	◎	★
		・ 段ボール、新聞等はリサイクル業者に引き渡す。	◎	★
		・ 書類データの電子化を行う。	◎	★
		・ 使用済みの封筒は再利用する。	◎	★
		・ コピー時の裏紙使用を徹底する。	◎	★
		・ コピー機・プリンター・テプラのカートリッジは販売店に渡す。	◎	★
		・ 3定に基づき、倉庫の管理徹底を行う。	◎	★
		・ 社内ゴミ捨てのルールに基づき処分する。(昼食のゴミ等)	◎	★
	産業廃棄物	・ 廃棄物の削減に努め、分別・リサイクルを実行する。	◎	★
		・ 現場発生廃棄物の分別管理を徹底し、適正処理を行う。	◎	★
		・ 減容化の推進を行う。	◎	★
		・ 保管場所の管理徹底を行う。	◎	★
総排水量削減	水使用量	・ 従業員やお客様用のお茶・コーヒー等を無駄に作り置きしない。	◎	★
		・ 従業員やお客様用のお茶・コーヒー等の洗い物はまとめて洗う。	◎	★
		・ 水の流しっ放しや蛇口の閉め忘れがないか適時確認する。	◎	★
		・ 清掃・洗車・植木等の水の適正利用を心がける。	◎	★
		・ 屋外植物にペットボトル給水器を設置する。	◎	★
		・ タンクを設置し、雨水を利用する。	◎	★
		・ ポットのお湯は一定量のみ沸かす。(基本は来客予定がある日のみ)	◎	★
		・ 加湿器・ポットの残り水は布巾の洗濯や植栽の水やりに再利用する。	◎	★

※それぞれの計画の責任及び担当者は実施体制参照

6.主な環境活動計画の内容

向洋電機土木株式会社

本年度の評価を基に、2023年度の主な環境活動計画を以下のように定めます。

評価 ◎：取組有り ○：新規 -：取組無し 次年度 ★：継続 ○：新規 -：継続無し

取組項目		主な活動内容	責任者	スケジュール	評価	次年度												
建設現場活動における		新商品・新技術についてお客様への情報発信。 各担当者が正確な知識を深め、具体的な数値で比較できるよう資料提供する。	森(亜)	都度	◎	★												
		リサイクルの確立。 金属くず・電線だけではなく、紙類やカイロ等についてもリサイクルの仕組みを確立する。 特に銅については、少量でも無駄にせず必ず分別しリサイクルする。	森(亜)	都度	◎	★												
	グリーン購入	社内事務用品のグリーン購入対象商品の推進。 グリーン購入対象商品メイン品目	荒井	毎日	◎	★												
		<table><tr><td>キングジムファイル</td><td>消しゴム</td><td>付箋</td></tr><tr><td>フラットファイル</td><td>シャープペンシル・替芯</td><td>DVD・CD</td></tr><tr><td>修正テープ</td><td>トイレットペーパー</td><td>ホッチキス</td></tr><tr><td>宛名ラベルシール</td><td>プロッターインク</td><td>製本テープ</td></tr></table>					キングジムファイル	消しゴム	付箋	フラットファイル	シャープペンシル・替芯	DVD・CD	修正テープ	トイレットペーパー	ホッチキス	宛名ラベルシール	プロッターインク	製本テープ
		キングジムファイル					消しゴム	付箋										
フラットファイル	シャープペンシル・替芯	DVD・CD																
修正テープ	トイレットペーパー	ホッチキス																
宛名ラベルシール	プロッターインク	製本テープ																
その他の物に関しては、『グリーン購買規定運用手順書』に基づいて業者選定・物品選定を行い、購入を推進する。																		
その他	環境配慮商品	お客様に対し省エネ機器等環境にやさしい商品提供を積極的に行う。 LED照明への交換。 ヒートポンプ対応商品への交換。 太陽光発電システムの設置。 蓄電システムの設置。 新商品・新技術についてお客様への情報発信。	元杉	都度	◎	★												
	社会貢献活動	- 社員に対し、環境意識の向上や環境保全活動に必要な教育を行う。 - マイ箸、マイバック、マイボトルの推進。 - 使用済み切手運動に参加する。 - エコキャップ運動に参加する。 - 緑のカーテンプロジェクトに参加する。 - 敷地内外の緑化活動を行い大気浄化、都市気象の緩和に徹する。 - フードドライブを実施する。 - 南区さくらまつりに協賛し、地元の祭りを継承する一助となる。 - 日本レスキュー協会への募金活動を行う。 - 日本盲導犬協会への募金活動を行う。 - 横浜市水のふるさと道志の森基金に協力する。 - ロードリーダーとして夜間パトロール等に協力する。 - 横浜型地域貢献企業として清掃活動する。 - 横浜市 Y-SDG s 最上位認定企業としてSDG s の啓発活動を行う	荒井・森(寿)	毎日 夏季 都度	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★												

7.環境活動計画に基づき実施した取り組み内容と評価、および次年度の取り組み

向洋電機土木株式会社

電力使用量削減 目標：23,362.31kWh
実績：23,218kWh
 （目標対比 99.4%）

7

エネルギーをみんなに
そしてクリーンに

12

つくも責任
つかう責任

13

気候変動に
具体的な対策を

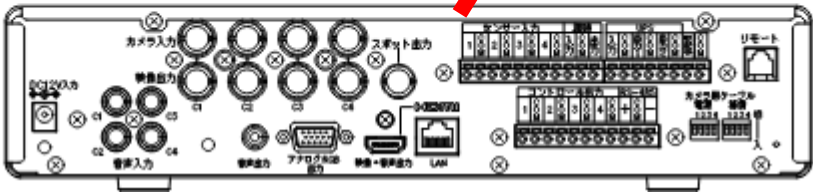
本年度も、引き続き感染対策を継続。エアコンを付けての換気や空気清浄機・非接触型検温機・自動消毒機を実施しました。

近年の電気代上昇も受け社内で節電を検討した結果、CO₂などの温室効果ガスの排出量削減のため、脱炭素社会づくりに貢献する「COOL CHOICE」に取り組みました。

グリーンリカバリーを利用し社内LED化を実現した結果、社員一人一人の意識向上を図り、今年度も目標数値を達成することができました。

◇ 外部監視カメラの更新工事

本社外部に設置していた監視カメラと防犯センサーについて機種が旧型化されていたため、ランニングコスト削減に繋がる事から全てのカメラと本体について交換工事を行いました。常時点灯から自動点灯（人感センサー）タイプへと変更したため年間でどれだけ削減の効果が発生するか、今後見極めていきたいと考えています



電源	AC100V 50/60Hz（ACアダプター（付属）使用）
消費電力	67W（0.8A）
カメラ電源供給	定電圧重畳伝送方式（AHDカメラ（AHD 3.0信号，AHD 2.0信号）／NTSCカメラ）
カメラ延長距離	最大800m（7C-2V，ケーブル補償「入」時）（*1）（*2）

7.環境活動計画に基づき実施した取り組み内容と評価、 および次年度の取り組み

向洋電機土木株式会社

電力使用量削減

目標：23,362.31kWh
実績：23,218kWh
(目標対比 99.4%)



◇ エアコン及び加湿空気清浄機の定期清掃 (エアコン：年3回、加湿空気清浄機：年5回実施)

フィルターの汚れによる電気代上昇を予防する為、大掃除と共にエアコン・加湿器における未使用月の定期清掃を継続しております。常に清潔に保つことで、快適に業務を行うことができ、様々な感染予防にも役立っています。特に加湿空気清浄機は感染対策により常時稼働している為、清掃回数を増やしました。今後も定期的な清掃を行い、更なる効率アップを目指していきます。



次年度目標：23,362.31kWh

取組：不要な照明の消灯・節電意識の向上

7.環境活動計画に基づき実施した取り組み内容と評価、および次年度の取り組み

向洋電機土木株式会社

化石燃料削減

目標：24,743.10 ℓ
実績：22,844.80 ℓ
(目標対比 92.3%)



【環境活動計画に基づき実施した取り組み】

一昨年度より社長の号令のもと「1人1台の車使用が本当に必要か、使用そのものについて考え直す」ことを活動の軸として、化石燃料の使用量削減に向け、活動を続けてまいりました。

◇車使用に関する費用のデータ化

車の使用に関連する各種費用について、人毎・項目毎に、毎月データ集計を行い、どの位の費用が発生しているのかを見える化してきましたが、今年度も引き続きデータを提示いたしました。

以前までは、1人1台、毎日車両を使用することが当たり前でしたが、現在では、車の使用そのものの是非について考えたり、維持費について認識するようになり、社員自身が検討をし、乗合で移動や公共交通機関の使用を検討することが浸透してまいりました。

車両関連費 月別集計表								
②車両リース	③自動車保険	固定費 (①+②+③)	④現場駐車場		⑤ガソリン カード	⑥ETC カード	流動費 (④+⑤+⑥)	固定費 + 流動費
			会社契約	楽楽精算				
¥33,000	¥2,654	¥33,000	¥0	¥0	¥14,268	¥18,950	¥33,218	¥66,218
¥40,370	¥3,465	¥40,370	¥0	¥7,780	¥13,770	¥38,840	¥52,610	¥92,980
¥33,000	¥3,224	¥38,000	¥0	¥0	¥17,565	¥0	¥17,565	¥55,565
¥34,100	¥3,224	¥39,100	¥0	¥3,980	¥18,926	¥1,580	¥20,506	¥59,606
¥31,900	¥3,144	¥43,900	¥0	¥1,980	¥10,244	¥0	¥10,244	¥54,144
¥33,000	¥3,224	¥33,000	¥0	¥7,600	¥7,173	¥3,320	¥10,493	¥43,493
¥31,900	¥3,144	¥31,900	¥0	¥0	¥18,040	¥0	¥18,040	¥49,940
¥34,100	¥3,224	¥50,600	¥0	¥0	¥4,242	¥2,200	¥6,442	¥57,042
¥34,100	¥3,224	¥50,600	¥19,800	¥14,200	¥13,136	¥7,500	¥20,636	¥71,236
¥31,900	¥3,128	¥31,900	¥0	¥5,100	¥17,599	¥9,580	¥27,179	¥59,079
¥31,900	¥3,144	¥49,900	¥0	¥5,900	¥13,906	¥8,220	¥22,126	¥72,026
¥31,900	¥3,128	¥36,900	¥25,000	¥0	¥31,404	¥37,710	¥69,114	¥106,014
¥34,100	¥3,375	¥50,600	¥0	¥0	¥18,646	¥32,090	¥50,736	¥101,336
¥31,900	¥3,128	¥37,900	¥0	¥0	¥15,008	¥2,130	¥17,138	¥55,038

7.環境活動計画に基づき実施した取り組み内容と評価、
および次年度の取り組み

向洋電機土木株式会社

化石燃料削減

目標：24,743.10ℓ
実績：22,844.80ℓ
(目標対比 92.3%)

7

エネルギーをみんなに
そしてクリーンに

11

住み続けられる
まちづくりを

13

気候変動に
具体的な対策を

17

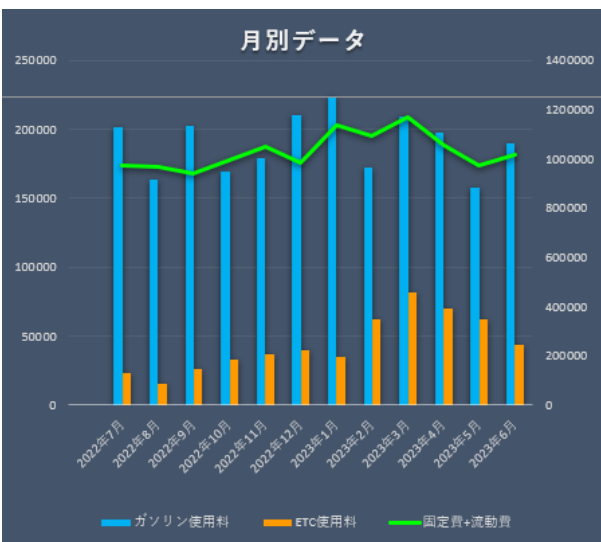
パートナーシップで
目標を達成しよう

◇車の使用・維持に関する費用の削減

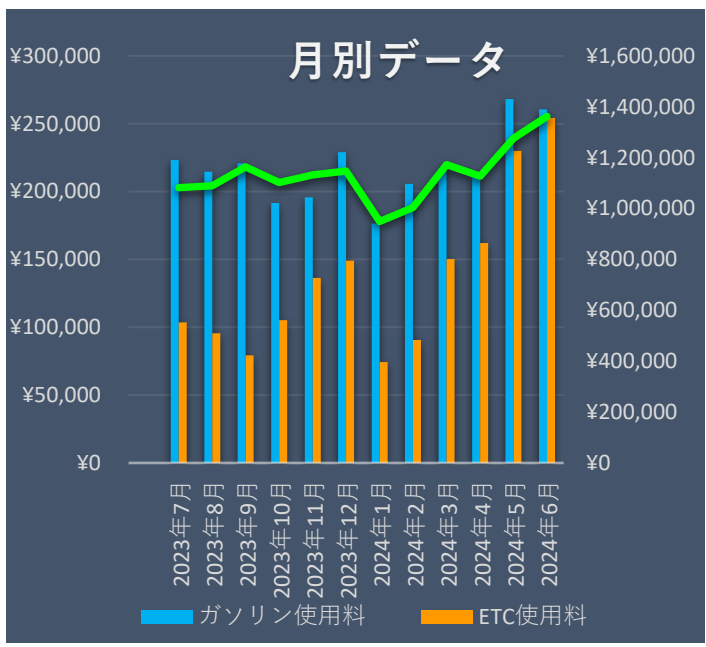
車の維持・使用に係る費用のデータを開示したことにより、1人1人の意識が高まり、同じ現場には乗合で移動するなどの工夫で、車の使用数がかなり減少しました。ただ、今年度は県外などの遠距離の受注現場が増え、ガソリンの使用量及びETC利用料が昨年と比べると増加しています。

遠方の現場の場合は高速道路の利用やガソリン使用量の増加が避けられないため、現場の仕事に支障をきたさない範囲で、公共交通機関の利用も含め、最大限の工夫と努力を継続し、引き続き目標値以内で推移するよう取り組んでまいります。

【2022年度】



【2023年度】



◇化石燃料使用量の削減

昨年度に比べると使用量は増加傾向ですが、遠方の現場が増え、移動距離が大幅に伸びたにも関わらず、目標値以内を達成することができました。

【自宅から現場までの移動距離の変化】

	稼働車両	年間化石燃料使用量
2021年度	23台	20819.06ℓ
2022年度	22台	19308.09ℓ
2023年度	21台	22,844.80ℓ

	【2022年度】	【2023年度】	移動距離の増加(km)	
	年間平均距離(km)	年間平均距離(km)	2022年度→2023年度	増加率
金子	16.0	32.2	16.2	50.3%
石川	17.2	25.3	8.1	32.0%
石井	15.9	15.8	-0.1	-0.7%
石渡	16.9	38.3	21.4	55.9%
永川	20.9	15.9	-5.0	-31.4%
白水	30.7	30.4	-0.3	-1.0%
秋佑	25.4	39.5	14.1	35.7%
堀之内	16.3	38.9	22.6	58.1%
凌平	20.0	73.4	53.4	72.8%
平均増加率			30.2%	

7.環境活動計画に基づき実施した取り組み内容と評価、 および次年度の取り組み

向洋電機土木株式会社

化石燃料削減

目標：24,743.10 ℓ
実績：22,844.80 ℓ
(目標対比 92.3%)

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに

11 住み続けられる
まちづくりを

13 気候変動に
具体的な対策を

17 パートナリシップで
目標を達成しよう

◇ 平均燃費ランキング化

例年行ってきた燃費ランキングについて、燃費の調査を長年続けて行い、社員自身が燃費を気に留めながら運転をすることが定着してきました。
今年度も引き続き同様の集計を行い、ランキング化いたしました。結果として、今年度の平均燃費も例年と変わらず、皆さんエコドライブが身につくにつつある事がわかりました。引き続き徹底してまいりたいと思います。

		平均燃費ランキング					
		2023年7月	2023年8月	2023年9月	2023年10月	2023年11月	2023年12月
1位	名前	金子	凌平	堀之内	三上	堀之内	泉水
	平均燃費	15.36	18.33	15.98	20.14	14.14	14.56
2位	名前	杉田	杉田	金子	石渡	金子	杉田
	平均燃費	14.95	13.82	12.30	13.78	13.69	14.09
3位	名前	石渡	堀之内	石渡	堀之内	寺田	金子
	平均燃費	14.50	13.17	12.15	13.34	13.49	13.64
4位	名前	堀之内	寺田	三上	金子	石渡	凌平

年間チャンピオン		平均燃費		会社平均	
石渡		13.50km/ℓ		11.91km/ℓ	

2023年 7月			2023年 8月			2023年 9月		
平均	10.81m/ℓ		平均	10.65km/ℓ		平均	10.63km/ℓ	
1位	金子	15.36km/ℓ	1位	凌平	18.33km/ℓ	1位	堀之内	15.98km/ℓ
2位	杉田	14.95km/ℓ	2位	杉田	13.82km/ℓ	2位	金子	12.30km/ℓ
3位	石渡	14.50km/ℓ	3位	堀之内	13.17km/ℓ	3位	石渡	12.15km/ℓ

2023年 10月			2023年 11月			2023年 12月		
平均	11.80km/ℓ		平均	12.27km/ℓ		平均	12.68km/ℓ	
1位	三上	20.14km/ℓ	1位	堀之内	14.14km/ℓ	1位	泉水	14.56km/ℓ
2位	石渡	13.78km/ℓ	2位	金子	13.69km/ℓ	2位	杉田	14.09km/ℓ
3位	堀之内	13.34km/ℓ	3位	寺田	13.49km/ℓ	3位	金子	13.64km/ℓ

2024年 1月			2024年 2月			2024年 3月		
平均	11.83km/ℓ		平均	11.70km/ℓ		平均	12.93km/ℓ	
1位	泉水	14.95km/ℓ	1位	泉水	14.14km/ℓ	1位	三上	19.31km/ℓ
2位	石渡	13.76km/ℓ	2位	寺田	12.93km/ℓ	2位	泉水	15.27km/ℓ
3位	金子	13.08km/ℓ	3位	杉田	12.83km/ℓ	3位	金子	13.95km/ℓ

2024年 4月			2024年 5月			2024年 6月		
平均	12.53km/ℓ		平均	12.99km/ℓ		平均	12.88km/ℓ	
1位	金子	16.89km/ℓ	1位	泉水	15.97km/ℓ	1位	凌平	18.8km/ℓ
2位	泉水	14.27km/ℓ	2位	石渡	15.60km/ℓ	2位	泉水	15.9km/ℓ
3位	石渡	13.85km/ℓ	3位	寺田	14.22km/ℓ	3位	石渡	14.88km/ℓ

※ハイブリッド車、乗車間もない社員はランキング対象外としています。

7.環境活動計画に基づき実施した取り組み内容と評価、および次年度の取り組み

向洋電機土木株式会社

化石燃料削減

目標：24,743.10ℓ
実績：22,844.80ℓ
(目標対比 92.3%)



◇ セーフティ・チャレンジ・かながわ（無事故・無違反コンクール）



神奈川県が実施している「セーフティ・チャレンジ」は3人1組のチーム単位で、6ヶ月間の安全運転(無事故・無違反)にチャレンジするコンクールです。

今年も8チームで参加し、安全運転をチームで意識することにより、人にも環境にも優しい運転の意識向上を図っております。

◇ アルコールチェックの実施

2023年12月よりアルコール検知器を用いた酒気帯びの有無の確認が「義務化」されたことを受け、弊社では当初予定されていた法施行開始よりも前にアルコール検知器を導入し、運転者1人につき1台、酒気帯びの確認と記録、報告を実施しております。

運転前にはアルコール検知を行うということが習慣化したので、今後もより一層安全運転に対して気を引き締めて取り組んでまいりたいと思います。

2024.3.28
標準 発表

無事故・無違反コンクールについて

いつもお力添え頂き、誠にありがとうございます。
早速ですが、令和5年度無事故・無違反コンクール結果について以下に詳細をご報告致します。

1. チーム別順位と結果について		
3人1組で参戦して取り組みました。		
1. チームラジエーター	佐藤・石川・三上	全年度無事故・無違反達成。
2. チームクラウン	岸本・水月・堀内	全年度無事故・無違反達成。
3. チームサンダー	森田・黒木・森	全年度無事故・無違反達成。 賞 10/12
4. チーム北条	木村・小栗・徳井	全年度無事故・無違反達成。
5. チームサンダー	吉田・寺田・大山	全年度無事故・無違反達成。
6. チームトナリ	横田・石井・白水	全年度無事故・無違反達成。
7. チームドリーム	金子・杉田・秋田	全年度無事故・無違反達成。
8. チームドリーム	石川・佐藤・佐藤	全年度無事故・無違反達成。
合計24人		
7チームが無事故無違反を達成。個人別では20人が無事故・無違反を達成しました。		



【取り組みの評価】

今年度は、受注をいただいた物件が神奈川県外や横浜市外など、本社や社員自宅から遠方の現場が多く、昨年度よりも約30%ほど移動距離が長くなってしまいました。その分、ガソリンや高速利用などが増え、昨年度よりは化石燃料使用量が増加してしまいましたが、目標値は達成することができました。

これは一昨年度より始めた車の使用台数削減や、車両関連費用の見える化により、社員の意識や行動が変化してきた結果と考えられます。

現場を効率よく運営しながら環境面にも配慮し、今後も引き続き「地球にも人にも優しい」取り組みを続けていきたいと思ひます。

【次年度の取り組み】

次年度以降も引き続き車使用そのもののあり方に関して意識しながら、環境経営に対する良い効果を生み出せるよう、取り組みを続けて参ります。

次年度目標：24743.10ℓ（同目標値）

7.環境活動計画に基づき実施した取り組み内容と評価、
および次年度の取り組み

向洋電機土木株式会社

廃棄物排出量削減

目標：304670kg
実績：303536.35kg
(目標対比 99.62%)

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに

12 つくる責任
つかう責任

13 気候変動に
具体的な対策を

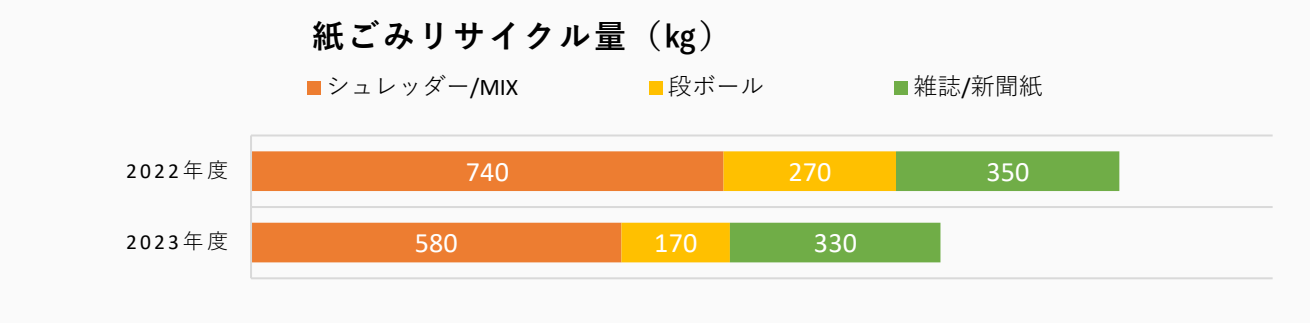
【環境活動計画に基づき実施した取り組み】

◇3定の徹底

在庫管理の基本である「定位」「定品」「定量」の3定に基づき、倉庫に保管する物に対してルールを決め、管理を行いました。測定器等の使用頻度の高いものは入口近くに置く、保管期間の長い書類等は奥側に配置と、物の特性に合わせ保管物の位置を定め、効率よく管理できるように基本を守っています。また書類等は随時電子データ化し、限りある保管スペースを有効活用できるよう、進めております。



◇リサイクル化の推進



昨年に引き続き、短期目標である『リサイクルの推進』については全社員に活動が浸透しており、年々リサイクル意識が高まっています。紙ごみに関しましては、これまで一括して溶解処理していた書類を細かく分別をしたためシュレツダー/MIXの増加が見込まれましたが、電子データ化の推進もあり、年間排出量は前年比22%減に抑えることができました。また、社内会議資料のオンライン共有や裏紙の利用推進、印刷ミスの削減、受信FAXの印刷に関して選別する等、不必要な印刷を減らす取り組みを今後もコツコツ続けていきます。

2023年度 FAX受信枚数 1,285枚
内印刷枚数 562枚
約723枚 印刷削減することができました。

例えば、FAX印字
に関しては
コピー用紙
1.5冊分 削減!

7.環境活動計画に基づき実施した取り組み内容と評価、および次年度の取り組み

向洋電機土木株式会社

廃棄物排出量削減

目標：304670kg
実績：303536.35kg
(目標対比 99.62%)



◇エコキャップ運動

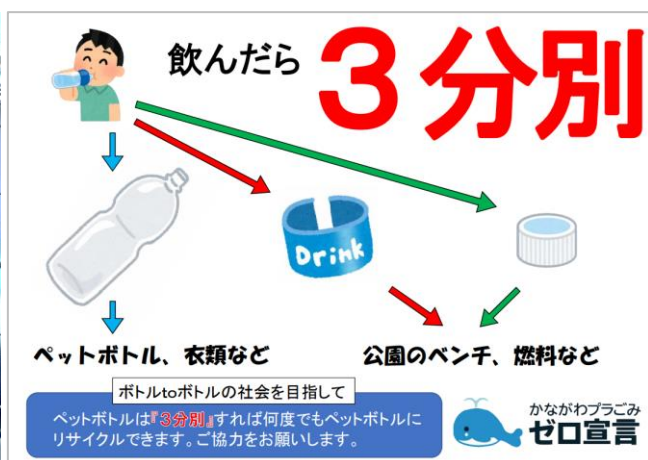


エコキャップ運動は通年で取り組んでおります。本年度もペットボトルキャップの収集活動を行いました。集まったキャップは『NPO法人エコキャップ推進協会』様へ寄付しております。今回は7.7kg回収いたしました。引き続き現場事務所にも設置し啓蒙活動してまいります。



受領書
予定

◇ペットボトル3分別



ペットボトルは、他のプラスチック製品に比べて資源としての価値が高い優れた資源です。そこで、当社自販機わきにポスターを掲示し「ペットボトル3分別」の啓発・促進を進めております。この「ペットボトル3分別」とは、ボトルtoボトルと呼ばれるペットボトルを原料化（リサイクル）し新たな食品用ペットボトルに再利用する方法で、水平リサイクルとも言われています。ペットボトルを資源として何度も循環することができ、化石由来資源の削減やCO₂の削減に良い影響をもたらします。

社内での認知もまだ十分とは言えないため、今後も引き続き次年度に向け分別方法や周知方法を検討してまいります。

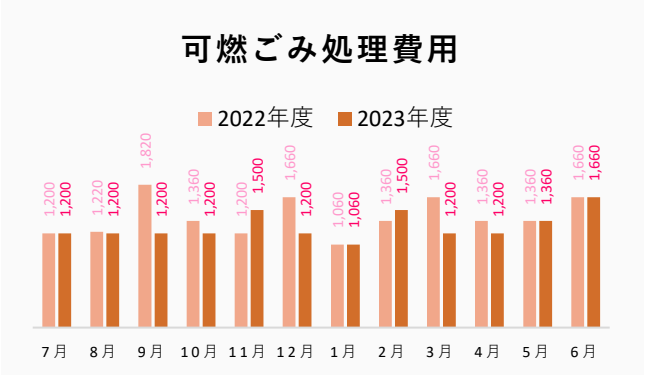
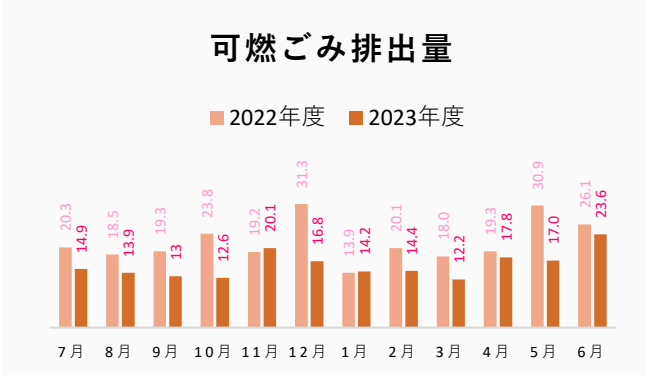
7.環境活動計画に基づき実施した取り組み内容と評価、および次年度の取り組み

向洋電機土木株式会社

廃棄物排出量削減 目標：304670kg
実績：303536.35kg
(目標対比 99.62%)



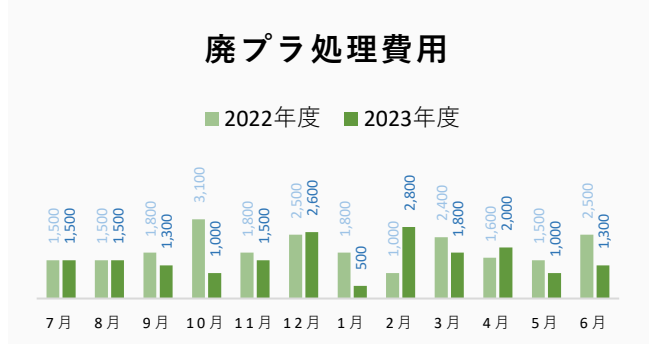
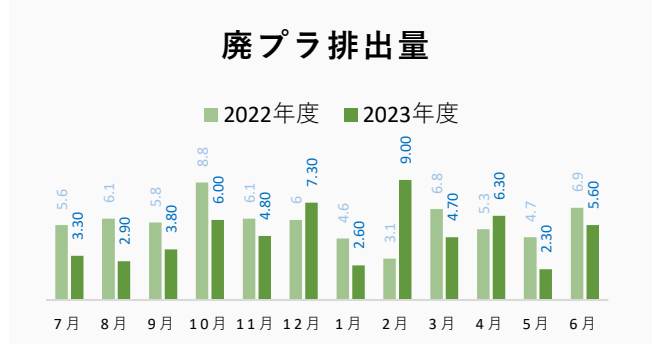
【取り組みの評価】



年度	総排出量 (kg)	処理費用合計(円)
2022年度	260.7	16,920
2023年度	190.5	15,480
前年比	▲70.2kg	▲1,440

可燃ごみ排出量は前年比70.2kg減、費用は1,440円減という結果になりました。年間でゴミ袋4.8袋程度の可燃ごみを削減することが出来ました。

また、これまで溶解処理をしていた書類をシュレッダー処理や紙ごみにする等、細かく分別したことで、溶解排出量は70%、処理費用は26,190円も削減することが出来ました。紙使用量の削減と同時に紙のリサイクルについても取り組みを続けていきます。



年度	総排出量 (kg)	処理費用合計(円)
2022年度	69.8	23,000
2023年度	58.6	18,800
前年比	▲11.2kg	▲4,200

廃プラスチック類排出量は前年比11.2kg減、処理費用は4,200円減となりました。ごみの減容化の徹底もあり年間でゴミ袋8.5袋程度の廃プラスチックを削減することが出来ました。

【次年度の取り組み】

- ①「ペットボトル3分別」の推進。
- ②現場資材の発注管理を行い、無駄を無くし、廃棄物だけではなく経費も減らせるよう工夫してまいります。
- ③印刷物をさらに削減し、電子データでの回覧や書類保管ができる様、電子化を更に推進してまいります。それに伴いサーバーの整理も行なってまいります。

次年度目標：2,570.0kg（本社分のみ）

7.環境活動計画に基づき実施した取り組み内容と評価、および次年度の取り組み

向洋電機土木株式会社

水使用量削減

目標：95m³
実績：90m³
(目標対比 94.7%)

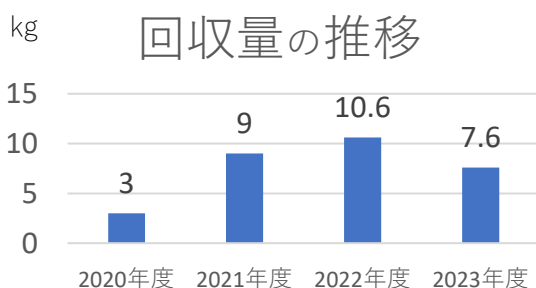


◇使用済み使い捨てカイロの回収

今年度も引き続き、使用済み使い捨てカイロの回収を行いました。事務所に回収ボックスを設置し、7.6kg分の使用済み使い捨てカイロが集まりました。個数にすると**179個**となり、これは河川の**約9000ℓ**(※)の水質浄化に役立ちます。

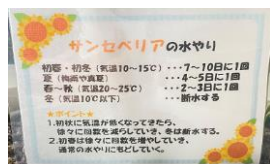
今年度は地球温暖化の影響か平均気温が昨年度に比べて高く、回収量が減少する結果となりましたが、この取り組みも4年目を迎え、社員を中心に出入りの業者様からもご協力いただくこともあり、取り組みが根付いたことを実感いたします。次年度も、本社だけでなく現場事務所にも設置し、協力会社様にもご協力いただけるよう周知し、さらに積極的に進めてまいります。

(※)流水環境(例：川、海など)において使用する場合の目安
1000リットルの汚水の場合 カイロを原料とした浄化キューブ1回の投入100g/週 計10回



◇植栽の水やりルールの徹底

空気清浄効果の高い「サンセベリア」という観葉植物を事務所に多く設置しておりますが、冬場は冬眠するという情報をもとにこの2年間の**冬季3か月ほど、水やりを中断**し、植物に影響がないかどうか確認しておりましたが、その結果生育にはまったく問題ないことがわかりました。これにより、余分な水を使用しなくても済むようになったため、他の植物についてもそれぞれの特性にあった適正な水やりを行い、引き続き社内の緑化と節水を両立できるように継続してまいります。



サンセベリア

◇加湿器・湯沸かしポットの残り湯の再利用



社内6か所ほど設置している加湿空気清浄器の水タンク及び湯沸かしポットの残り水を、植栽の水やりや、掃除、タオルの洗濯等に再利用する取り組みは、社内でも浸透し、当たり前のよう日々実行するようになりました。

社員の節水意識の高まりをこのまま継続できるよう、引き続きPOP等も用いて社内周知や啓発に努めてまいります。

7.環境活動計画に基づき実施した取り組み内容と評価、 および次年度の取り組み

向洋電機土木株式会社

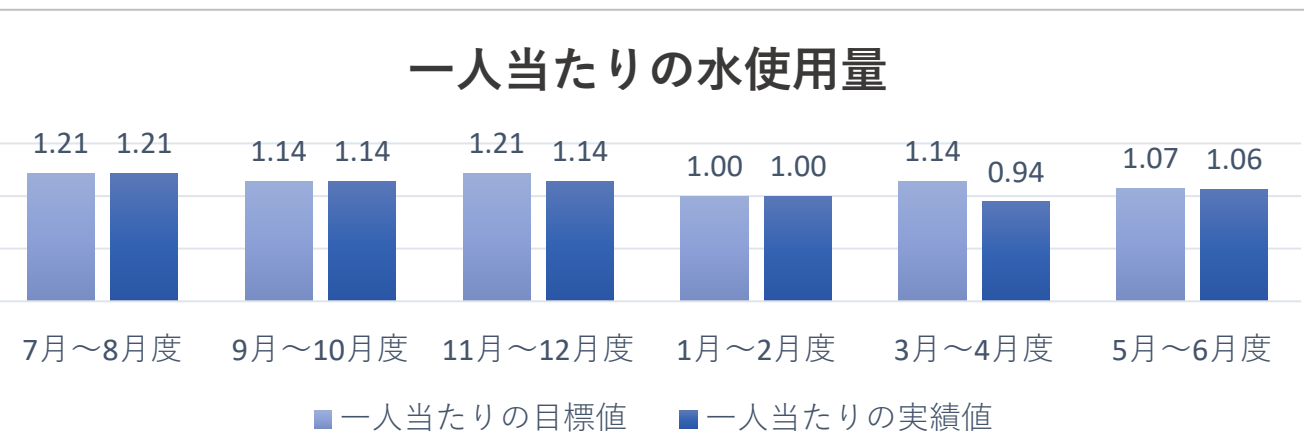
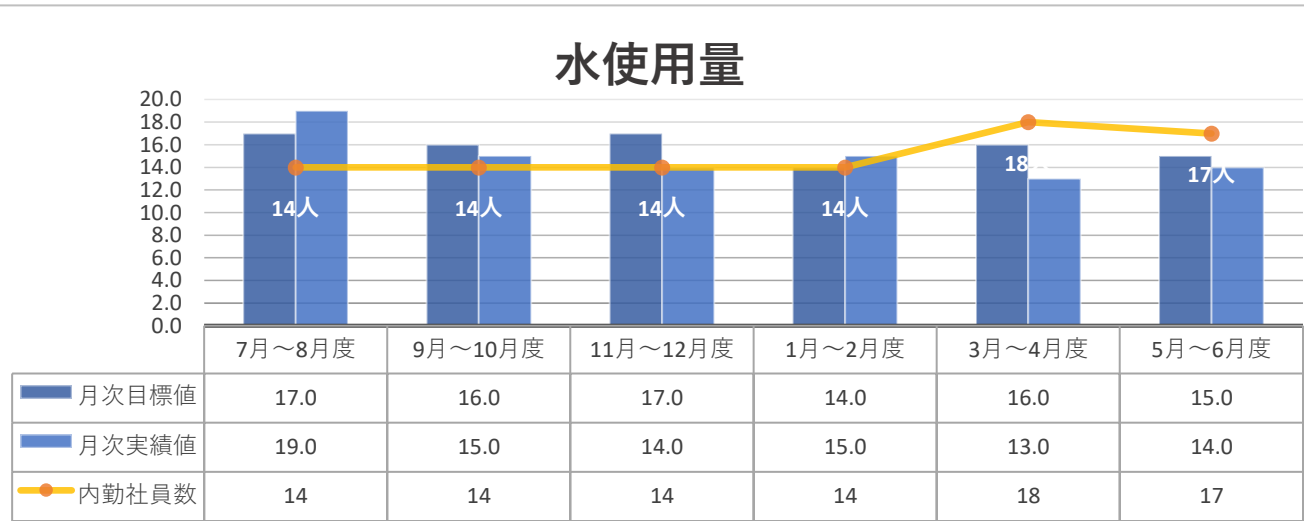
水使用量削減

目標：95m³
実績：90m³
(目標対比 94.7%)



【取り組みの評価】

昨年度実績値を基準とし、本年度からの中長期目標値を毎年95m³/年としました。
年間通して、水の出し過ぎや出しっぱなし等の無駄遣いは無くなり、日常的に水使用量が削減されています。給湯ポット、加湿器の給水タンク等の残り水は、布巾の洗濯や植栽の水やりに再利用し、節水が習慣化されています。
3月から4月にかけて女性社員が増え、水の総使用量としては増加がみられましたが、一人当たりの使用量でみると目標値内となっております。社員全員が節水意識をもって取り組み、引き続き活動してまいりたいと思います。



【次年度の取り組み】

引き続き道志の森基金の募金活動に取り組む他、随時自社に見合った良い対策がないかアンテナをめぐらせ、今後も現在の節水を継続できるよう新規メンバー含め全社員に向け節水活動への呼びかけを行います。一人当たりの水使用量の月ごとの推移をふまえて、翌年度の月次目標を策定します。

次年度目標：95m³ (月次目標値は次年度も継続)

7.環境活動計画に基づき実施した取り組み内容と評価、 および次年度の取り組み

向洋電機土木株式会社



【電気】



メインターゲット

13.3 気候変動の緩和策と適応策、影響の軽減、早期警戒に関する教育、啓発、人的能力、組織の対応能力を改善する。

【化石燃料】



メインターゲット

7.a 2030年までに再生可能エネルギー、エネルギー効率先進的でより環境負荷の低い化石燃料技術など、クリーンなエネルギーの研究や技術の利用を進めるための国際協力を強化し、エネルギー関連インフラとクリーンエネルギー技術への投資を促進する。

【産廃】



メインターゲット

12.5 2030年までに、廃棄物の発生を、予防、削減（リデュース）、再生利用（リサイクル）や再利用（リユース）により大幅に減らす。

【水】



メインターゲット

6.4 2030年までに、水不足に対処し、水不足の影響を受ける人々の数を大幅に減らすために、あらゆるセクターで水の利用効率を大幅に改善し、淡水の持続可能な採取・供給を確実にする。

7.環境活動計画に基づき実施した取り組み内容と評価、 および次年度の取り組み

向洋電機土木株式会社

【社会貢献他取り組み内容】



◇ 社内緑化～植栽と社内観葉植物の栽培

育てやすい花苗の植栽、また乾燥や日陰に強く空気清浄効果やマイナスイオン放出量が高いサンセベリア栽培等によるエコな社内緑化を継続中です。



2024.6.7 社内緑化の様子

◇ 「健康経営」との連携

少子高齢化に伴う労働力不足、またコロナ禍をきっかけに従業員の心身の健康管理を経営的な視点で考える「健康経営」への関心はますます高まっています。中でも、自然とのふれあいがもたらす心身へのよい影響は、環境省の有識者検討会ほか研究者から様々な事例をもって発信されています。引き続き、多角的な視点を持ち、継続した運用が可能な方法で社内緑化の取り組みを続けてまいります。



7.環境活動計画に基づき実施した取り組み内容と評価、および次年度の取り組み

向洋電機土木株式会社

【社会貢献活動】

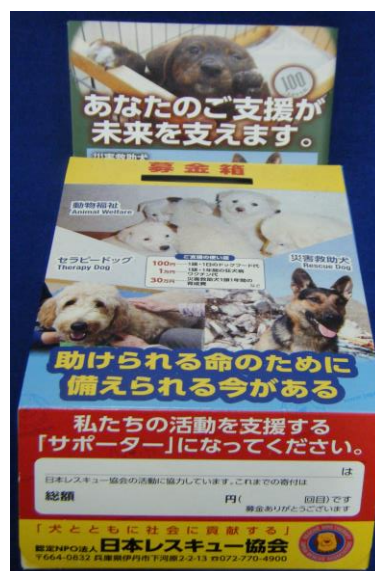


◇ 第一回みなみ桜まつり2024協賛

弊社所在地の横浜市南区は大岡川沿いの桜並木が美しく、夜間ライトアップやお祭りで多くの方に親しまれる春の風物詩でもあります。コロナ禍での行事中止を経て、協賛企業の減少からまつりの開催が危ぶまれるなか、地元を盛り上げていきたいとの強い思いから再出発を協賛で応援すると共に、地元の子どもたちが作成した「絵灯籠」のデザインについて審査を務めさせていただきました。地元の小学生が作成した満開の桜の作品を選出しました。



◇ 日本レスキュー協会への募金活動



感謝状

向洋電機土木株式会社 様及び
ご支援いただいた皆様 へ

日本レスキュー協会（公益財団法人）は、貴社よりご支援をいただき、誠にありがとうございます。皆様からの温かいご支援は、私たちにとって大きな励みとなります。

貴社のご支援をいただき、誠にありがとうございます。皆様からの温かいご支援は、私たちにとって大きな励みとなります。

金額	今回	総額
	883 円	122 円

上記の金額を日本レスキュー協会（公益財団法人）へお送りください。お送りいただいた金額は、日本レスキュー協会（公益財団法人）へお送りください。

日本レスキュー協会（公益財団法人）へお送りください。お送りいただいた金額は、日本レスキュー協会（公益財団法人）へお送りください。



◇ 日本盲導犬協会の募金活動

災害救助犬やセラピードッグ、動物福祉への支援のため、日本レスキュー協会への募金活動を開始し5年目となりました。募金箱とパンフレットを設置し、社会貢献活動としてご協力しています。



平成23年募金開始。
継続的に募金活動に取り組んでいます。

日本盲導犬協会から募金箱とパンフレットを頂いて、盲導犬の育成・普及支援のため、社内周知に努めております。

7.環境活動計画に基づき実施した取り組み内容と評価、および次年度の取り組み

向洋電機土木株式会社

【社会貢献活動】

◇ 地元保育園との交流



2023年5月より新型コロナウイルスが「5類感染症」の位置づけとなり、地元地域での交流活動を再開しました。

保育園の園児たちと共に自然いっぱいの動物園に出かけて笑顔で交流しました。

今後も子どもたちの素朴なまなざしと興味に寄り添い、未来への視点を大切にしながら様々な社会貢献活動に取り組んでまいります。

◇ 横浜市水のふるさと道志の森基金

横浜市の水源の一つである道志川の水源林を守る事業に「道志の森基金」という形で協力しております。道志水源林は清らかな道志川の水を横浜市民に安定して送り続けるため重要な役割を果たしており、この基金は民有林を整備する事業を支える資金として活用されています。

未来のこども達の大切な水源を引き継いでいくため、間伐材で作られた募金箱を設置し社内外の関心を深め、支援を続けてまいります。



◇ 使用済み切手寄付

市民による海外協力の会『シャプニール』様の活動に賛同し、使用済み切手を回収し寄付しております。

弊社が取り組むSDGs活動の前身、MDGs は発展途上国支援を目的としたものでした。この日々の小さなアクションを通じバングラデシュやネパール等の教育支援等に寄与し、今後も誰かの笑顔を守れるよう活動継続してまいります。



7.環境活動計画に基づき実施した取り組み内容と評価、 および次年度の取り組み

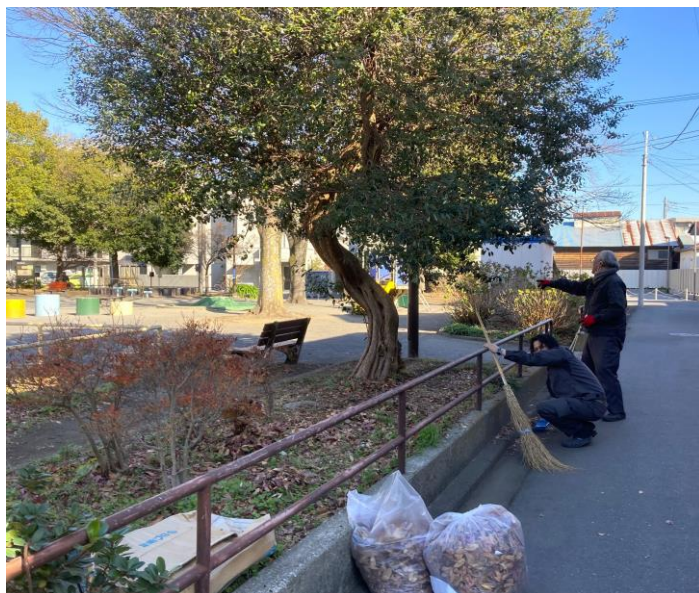
向洋電機土木株式会社

【社会貢献活動】



◇ 地域の清掃

平成23年3月に横浜地域貢献企業の最上位認定をいただいてから、今年で12年目となりました。会社周辺の清掃を定期的に行い、地域の美化に努めております。



◇ ロードリーダー

今年度も「セーフティ・チャレンジ・かながわ」無事故・無違反コンクールに参加しました。

無事故・無違反の推進を行うロードリーダー育成モデル事業所の神奈川県第一号に任命されてから14年目となりましたが、今後もセーフティドライブを継続し交通事故の減少に寄与し、安全・安心な暮らしづくりを推進していきます。



◇ 障害者バスケット支援

障害者バスケットの活動に賛同企業として支援すると共に、従業員がメンバーとして参加しています。今後も、共に身体を動かし楽しんで参加してまいります。



- ・ 横浜フラッドヘッドは、立場も所属も関係なく
- ・ みんなで楽しめるバスケを目指しています。



7.環境活動計画に基づき実施した取り組み内容と評価、および次年度の取り組み

向洋電機土木株式会社

【社会貢献活動】

◇SDGs啓発活動



昨年度、弊社は横浜市が実施する4つの認定・認証制度（①横浜型地域貢献企業認定、②よこはまグッドバランス賞、③横浜健康経営認証、④横浜市SDGs認証制度“Y-SDGs”）を全て取得した企業を対象とする「**横浜グランドスラム企業表彰**」を受賞いたしました。

中でも横浜横浜市 Y-SDG s 最上位-Supreme-認定企業として、SDG s の啓発活動を積極的に行っております。

今年度は金融機関にて勉強会を開催。SDG s 社会的インパクトマネージャー・公認ファシリテーターである社員を中心に、カードゲーム「2030SDG s」を用いた体験型講習を行いました。



横浜市SDGs認証制度



(横浜市SDGs認証制度 / 私たち)は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

7.環境活動計画に基づき実施した取り組み内容と評価、
および次年度の取り組み

向洋電機土木株式会社

【社会貢献活動】

3

すべての人に
健康と福祉を

4

質の高い教育を
みんなに

11

住み続けられる
まちづくりを

◇ 竣工記念
リトルシニアリーグ デモンストレーションゲーム

弊社が照明器具の取付けを担当した野球場の竣工にあたり、地元のシニアリーグチームを招待しデモンストレーションゲームを行いました。大谷選手を照らすドジャー・スタジアムと同じ、世界一のモスコ社の光を一身に浴びた子どもたちの元気な掛け声が、マジックアワーを迎えた球場に響きわたりました。



第6号様式（第7条）

工事完成検査結果通知書

第 1164 号
令和 6年 5月29日

向洋電機土木株式会社
代表取締役 倉澤 俊郎 様

横浜市みどり環境局長

次の工事は、検査の結果、完成を確認しましたので通知します。また、横浜市工事務検査事務取扱要綱に基づき評定した結果も併せて通知します。

契約工事名	俣野公園ナイター照明施設改良工事（その2）		
契約年月日	令和 5年12月21日	完成年月日	令和 6年 5月24日
評 定 点	96 / 100点		

各項目の評定については、評定点の記入してある欄の評価です（ただし、法令遵守等については、減点（▲）方式による評価です。該当なしは0点です。）。

評 価 項 目	細 別	評定点 /満点
1 施工体制	I 施工体制一般	3.3 / 3.3
	II 配置技術者	4.1 / 4.1
2 施工状況	I 施工管理	13 / 13.0
	II 工程管理	8.1 / 8.1
	III 安全対策	8.8 / 8.8
	IV 対外関係	3.7 / 3.7
3 出来形及び出来ばえ	I 出来形	13.9 / 14.9
	II 品質	16.2 / 17.4
	III 出来ばえ	8.5 / 8.5
4 工事特性	I 施工条件等への対応	5.3 / 7.3
5 創意工夫	I 創意工夫	5.7 / 5.7
6 社会性等	I 地域への貢献等	5.2 / 5.2
評定点計		96.8点
I 法令遵守等（減点のみ）		▲ 0 点
評定点合計		96 /100点

<連絡先>

みどり環境局公園緑地事業課
電話（671）2616

※ 評定点合計が95点未満の場合は、横浜市工事務検査に関する競争入札取扱要綱第25条第1項第5号に規定する不適合基準に該当することがあります。
詳細は、財政局契約第一課（電話（671）2244）まで、お問い合わせください。

弊社担当、俣野公園ナイター照明施設改良工事（令和 6年5月24日に竣工）の工事完成検査において、歴代最高の96点をいただきました。



8.環境関連法規への違反・訴訟等の有無

向洋電機土木株式会社

環境法規の名称	概 要
電気事業法	感電や電気工作物の保安の確保を図る
	必要機器の設置
	標識の掲示
	主要電気工事士の設置
	低圧電気取扱などの特別教育受講者の設置
消防法	火災の予防
	150㎡以上の作業場、倉庫:300㎡以上の事業所には消火器の設置
廃棄物処理法	産業廃棄物の管理
	発生から最終処分が終了するまでの処理が適正に行われる措置
	マニフェストの管理
	「産業廃棄物管理票交付状況等報告書」を毎年6月30日までに知事に提出する
建設リサイクル法	一定規模以上の現場の特定建設資材は適切に処理する
家電リサイクル法	エアコン、冷蔵庫、テレビ、洗濯機のリサイクルに協力する
小型家電リサイクル法	パソコン、小型二次電池のリサイクルに協力する
大気汚染防止法	自動車の運転、使用時は廃ガス抑制に努める
水質汚濁防止法	公共用水域の水質の保全を図るため、国等による対策の実施に協力
グリーン購入法	物品購入時できる限り環境品等を選択するよう努める
フロン排出抑制法	第一種特定製品の3ヵ月に1回の簡易定期点検実施
プラスチック資源循環法	なるべく長時間使用し、過度な使用を抑制する
アスベスト法	リノベーション時に含有の可能性がある場合の調査

- ✓ 環境関連法規への違反はありません。
- ✓ 遵守事項における当社での評価も問題はありません。
- ✓ 関係当局及び近隣より違反、苦情等の指摘も過去3年間ありません。
- ✓ 実際施工した現場において、建設リサイクル法・廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき、適正に処理を行いました。

2023年度評価（総評）

本年度で弊社がエコアクション21に取り組むようになり、第16期目となりました。アフターコロナで取り戻せた活動、またこれまで同様継続してきた取り組みを評価すると共に、来年度以降も継続・発展させてまいりたいと思います。

弊社での工夫や取り組みについては数字的な限界が見えてきたこともあり、今期もエコアクションは何のために行っている取り組みなのか、従業員皆で原点を振り返りました。自然資本の維持は地球に暮らす皆にとって大切な課題ですが、一方で弊社はその活動認証・規格の為にのみ存在しているわけではありません。あたらめて、目先の数字の成果のみにとらわれず、これまでの取り組みの課程で得た気づきや課題をいかに社員の成長に繋げるか、そしてまた本業に生かせるかを精査しながら、継続してより良い取り組みを続けてまいりたいと思います。

【電気について】

2019年4月1日に施行された「働き方改革関連法」は5年の猶予期間を経て、2024年4月より建設業界でも遵守が求められます。時間外労働の上限規制に伴う数字の変化と共に、弊社では以前よりテレワークを導入するなど効率的な働き方に取り組み、電気の無駄削減に努めております。

今後も、機器入替等による費用対効果も精査していきましょう。

【化石燃料について】

適切な時期に新しい車両を取り入れる事で、おのずと燃費は良くなっていきます。こうした性能の良さによる省エネ効果のみならず、各々のスケジュールを共に把握し手段含め効率的な移動を行うことを心掛け、化石燃料の無駄削減に努めていきましょう。

【水について】

社員数と来客数で変動するため使用料削減には限界がありますが、引き続き、日々の節水に対する意識を高める働きかけを行い、現状維持を続けていきましょう。

【廃棄物について】

一般企業とは異なり、弊社では受注内容(新規・リノベーション)により産廃物の量は大きく変わります。数値統制や評価は難しい面がありますが、混合廃棄物の割合で評価するなど着眼点の転換も検討しましょう。また引き続き通常業務におけるゴミの分別、またゴミの量を減らす為に日々工夫をしてまいりましょう。

購入・導入・変更・更新など様々な形で取組みを進めますが、常にそれらが会社にとって最善な形かと各自で自問しながら、実践に繋げていきましょう。

9.代表者による見直し結果

向洋電機土木株式会社

我々【電気設備工事】を行う者たちは、社会的インフラの担い手としての重要な責務を担うと共に、企業としてプラス α の価値を求められております。そのプラス α の価値創造のために、SDGsの取組みは欠かせないものと考えております。社会的シーズとニーズ双方を兼ね備えた企業こそが次世代に対する責務を果たしていけると確信しており、環境経営と共に、ワークライフバランス、女性活躍推進、健康経営、地域貢献、テレワーク推進など、様々な取組みを横断的に進めていくことで、各活動が有機的に機能し、価値の創造につながると考えております。



向洋電機土木株式会社
代表取締役 倉澤 俊郎

また、これらの活動は **CS(顧客満足)**、**ES(従業員満足)**、**FS(家族満足)**、**PS(個人満足)**の【4S】を満たすよう意識すると共に、弊社では2030年のSDGsの目標を達成するため、**Area Satisfaction (地域満足)**を掲げ活動を進めております。個人、会社、地域のリソースの交換と提供を駆使しながら、未来を共創してまいります。

【環境保護】～地球の未来と未来の担い手たちの為に



【経済成長】～社員・関連する人々・組織の成長へ



【社会的包摂】～誰も取り残されない社会の実現を



“No one left behind”



「2030年に誰も取り残されない社会を実現しよう」

 **向洋電機土木株式会社**



**YOKOHAMA
GRAND SLAM
COMPANY**

令和5年6月、弊社は横浜型地域貢献企業認定、よこはまグッドバランス賞、横浜健康経営認証、横浜市SDGs認証制度“Y-SDGs”を全て取得した企業を対象とする「横浜グランドスラム企業表彰」を受賞いたしました。